科目基礎 開製 担到 ル 学生かこ 安技チカ 実発こ 学 専 教 日 を	情報	集中した英也とでおるである。は会ができるととの経験をある。は会ができる。	専攻(機械工学コース)	科目区分 単位の種別と単位数対象学年 週時間数 標準的な到達レベノ 学んだ知識や実験技生かすために、のおければならないた。 安全や環境に対する 技術ムム重要性を認識で	専門 / 選択 対 履修単位: 専1 の目安 技術を実社会でできる。	
科目番号 開設 財 教 担 到 ル 学生かこ 安技チカ 実発こ 学 専 教 目 が の 習表と 中 門 育 方 法 の の 識 (B 会 の の) は (B 会 の) は	サーク やにな にてクを認 こな にてクを認 こな にてクを認 こな にてクを認 こな にて	実習生産工学等集中は、松英・連切を表でするである。これでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	理想的な到達レベルの目安学んだ知識や実験技術を実社会で生かすために、何を身につけておかなければならないかを充分に体験できた。安全や環境に対する意識を高め、技術者としてのモラルや責任感、チームワークを支える意思伝達能力の重要性を充分に認識できる。	単位の種別と単位数対象学年 週時間数 標準的な到達レベノ 学んだ知識や実験技生かすために、何をかなければならないた。 安全や環境に対する 技術人フークを支	牧 履修単位: 専1 の目安 技術を実社会で 登身につけてお かかを体験でき	ま到達レベルの目安学んだ知識や実験技術を実社会で生かすために、何を身につけておかなければならないかを体験でき
授業形態 開設期 教担 到達 アイン デキカミ発子の 実発ご 学専 教育 (B)	ック や実験何ない がました がった がった がった がった がった がった で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	実習生産工学等集中は、松英・連切を表でするである。これでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	理想的な到達レベルの目安学んだ知識や実験技術を実社会で生かすために、何を身につけておかなければならないかを充分に体験できた。安全や環境に対する意識を高め、技術者としてのモラルや責任感、チームワークを支える意思伝達能力の重要性を充分に認識できる。	単位の種別と単位数対象学年 週時間数 標準的な到達レベノ 学んだ知識や実験技生かすために、何をかなければならないた。 安全や環境に対する 技術人フークを支	牧 履修単位: 専1 の目安 技術を実社会で 登身につけてお かかを体験でき	ま到達レベルの目安学んだ知識や実験技術を実社会で生かすために、何を身につけておかなければならないかを体験でき
開設 対 開設 期 教科書/教材 担 到 達	ック や実験何ない がました がった がった がった がった がった がった で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	生産工学等 集中 な英 と を実力は を実力は を まつな を まつな を まつな を まつな を まつな を まつな を まつな を まつな を まつ。 を まつ。 を まつ。 を まつ。 を まつ。 を まる。 まる。 まる。 まる。 まる。 まる。 まる。 まる。 まる。 まる。	理想的な到達レベルの目安学んだ知識や実験技術を実社会で生かすために、何を身につけておかなければならないかを充分に体験できた。安全や環境に対する意識を高め、技術者としてのモラルや責任感、チームワークを支える意思伝達能力の重要性を充分に認識できる。	対象学年 週時間数 標準的な到達レベノ 学んだ知識や実験技生かすために、何を かなければならない た。 安全や環境に対する 技術者としてのモラ	専1 しの目安 技術を実社会で き身につけてお いかを体験でき	未到達レベルの目安学んだ知識や実験技術を実社会で生かすために、何を身につけておかなければならないかを体験でき
開設期 教科書/教材 担 到達 ブリー がなと 全術ーの 習表と 学門 育 大学門 育方 大学門 育方 大学門 育方 大学 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	ック や実験何ない がました がった がった がった がった がった がった で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	集中した英也とでおるである。は会ができるととの経験をある。は会ができる。	理想的な到達レベルの目安学んだ知識や実験技術を実社会で生かすために、何を身につけておかなければならないかを充分に体験できた。安全や環境に対する意識を高め、技術者としてのモラルや責任感、チームワークを支える意思伝達能力の重要性を充分に認識できる。	標準的な到達レベノ 学んだ知識や実験技生かすために、何をかなければならないた。 安全や環境してのモラ	レの目安 技術を実社会で 全身につけてお いかを体験でき	学んだ知識や実験技術を実社会で 生かすために、何を身につけてお かなければならないかを体験でき
教科書/教材担当建一 アイス (1) (1) (1) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	ック や実験何ない がました がった がった がった がった がった がった で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	なし 松英達也 松英達也 でおった体験である 意識を信任を 意記との経験を をなった。 は会ができる	理想的な到達レベルの目安学んだ知識や実験技術を実社会で生かすために、何を身につけておかなければならないかを充分に体験できた。 安全や環境に対する意識を高め、技術者としてのモラルや責任感、チームワークを支える意思伝達能力の重要性を充分に認識できる。 実習内容やそこでの社会的経験を	標準的な到達レベノ 学んだ知識や実験打 生かすために、何を かなければならない た。 安全や環境に対する 技術者としてのモラ	技術を実社会で と身につけてお いかを体験でき	学んだ知識や実験技術を実社会で 生かすために、何を身につけてお かなければならないかを体験でき
担当教員 別達目標 ルーブリックを対すればが、 安技チカ 実務こ 学 専 教育 方法 で の で の で の で の で の で の で の で の で の で	ック や実験何ない がました がった がった がった がった がった がった で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	松英達也 がを実社会でおる 意識を見伝する 意識を見伝達 がをはいる意ととの経済を を実との経済を をまたないである。 は会ができる	理想的な到達レベルの目安学んだ知識や実験技術を実社会で生かすために、何を身につけておかなければならないかを充分に体験できた。 安全や環境に対する意識を高め、技術者としてのモラルや責任感、チームワークを支える意思伝達能力の重要性を充分に認識できる。 実習内容やそこでの社会的経験を	学んだ知識や実験技生かすために、何かなければならないた。 安全や環境に対する技術者としてのモラチームワークを支持	技術を実社会で と身につけてお いかを体験でき	学んだ知識や実験技術を実社会で 生かすために、何を身につけてお かなければならないかを体験でき
到達目標 ルーブリップを表示しています。 学んだすたがはないでは、 安全がするででは、 安全が一のででは、 実表とのででは、 学科の可では、 学科の可では、 学科の可では、 学科の可では、 学科の可には、 学科のでは 学科のでは 学科のでは 学科のでは 学科のでは 学科のでは 学科のでは 学科のでは 学科のでは 学科のでは 学科ので 学科ので 学科ので 生物を 生物を 学術を 学術を 学術を 学術を 学術を 学術を 学術を 学術を 学術を 学術	や実験技術をいた にてのを認ってのを認ってのを認って を記って を記って で質 標・手 割 教養・ 打 の 表 で は で は で は で は で は で は で は で は で は で	がを実社会でおいた体験では、 ではないでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	理想的な到達レベルの目安学んだ知識や実験技術を実社会で生かすために、何を身につけておかなければならないかを充分に体験できた。 安全や環境に対する意識を高め、技術者としてのモラルや責任感、チームワークを支える意思伝達能力の重要性を充分に認識できる。 実習内容やそこでの社会的経験を	学んだ知識や実験技生かすために、何かなければならないた。 安全や環境に対する技術者としてのモラチームワークを支持	技術を実社会で と身につけてお いかを体験でき	学んだ知識や実験技術を実社会で 生かすために、何を身につけてお かなければならないかを体験でき
ルーブリッ 学んだ知識が 生かなければが ことをででは、 安技が一の習れ、 実発こ学科知識(B 等門知識(B	や実験技術をいた にてのを認ってのを認ってのを認って を記って を記って で質 標・手 割 教養・ 打 の 表 で は で は で は で は で は で は で は で は で は で	限につけておいを体験を高め、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	学んだ知識や実験技術を実社会で生かすために、何を身につけておかなければならないかを充分に体験できた。 安全や環境に対する意識を高め、技術者としてのモラルや責任感、チームワークを支える意思伝達能力の重要性を充分に認識できる。 実習内容やそこでの社会的経験を	学んだ知識や実験技生かすために、何かなければならないた。 安全や環境に対する技術者としてのモラチームワークを支持	技術を実社会で と身につけてお いかを体験でき	学んだ知識や実験技術を実社会で 生かすために、何を身につけてお かなければならないかを体験でき
学んだ知識や生かなければかったと。 安全・では、 安全・では、 安全・では、 安全・では、 大力・のでは、 大力・ 大力・ 大力・ 大力・ 大力・ 大力・ 大力・ 大力・ 大力・ 大力・	や実験技術をいた にてのを認ってのを認ってのを認って を記って を記って で質 標・手 割 教養・ 打 の 表 で は で は で は で は で は で は で は で は で は で	限につけておいを体験を高め、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	学んだ知識や実験技術を実社会で生かすために、何を身につけておかなければならないかを充分に体験できた。 安全や環境に対する意識を高め、技術者としてのモラルや責任感、チームワークを支える意思伝達能力の重要性を充分に認識できる。 実習内容やそこでの社会的経験を	学んだ知識や実験技生かすために、何かなければならないた。 安全や環境に対する技術者としてのモラチームワークを支持	技術を実社会で と身につけてお いかを体験でき	学んだ知識や実験技術を実社会で 生かすために、何を身につけてお かなければならないかを体験でき
生かすためにかなければがこと。 安全や環境に大力の重要性を発表した。 学科の重容やの発表と。 学科の到演のでは、 学科の 学科の 学科の 会話では、 会述は、 会話では、 会述できればいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいい	に、いいて、 に、いいでは、 に、いいいでは、 に、いいいでは、 で、 かいでも、 で、	限につけておいを体験を高め、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	学んだ知識や実験技術を実社会で生かすために、何を身につけておかなければならないかを充分に体験できた。 安全や環境に対する意識を高め、技術者としてのモラルや責任感、チームワークを支える意思伝達能力の重要性を充分に認識できる。 実習内容やそこでの社会的経験を	学んだ知識や実験技生かすために、何かなければならないた。 安全や環境に対する技術者としてのモラチームワークを支持	技術を実社会で と身につけてお いかを体験でき	学んだ知識や実験技術を実社会で 生かすために、何を身につけてお かなければならないかを体験でき
生かすためにかなければがこと。 安全や環境に大力の重要性を発表した。 学科の重容やの発表と。 学科の到演のでは、 学科の 学科の 学科の 会話では、 会述は、 会話では、 会述できればいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいい	に、いいて、 に、いいでは、 に、いいいでは、 に、いいいでは、 で、 かいでも、 で、	限につけておいを体験を高め、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	生かすために、何を身につけておかなければならないかを充分に体験できた。 安全や環境に対する意識を高め、技術者としてのモラルや責任感、チームワークを支える意思伝達能力の重要性を充分に認識できる。 実習内容やそこでの社会的経験を	生かすために、何をかなければならないた。 安全や環境に対する 技術者としてのモニチームワークを支え	と身につけてお いかを体験でき	生かすために、何を身につけておかなければならないかを体験でき
技術者として チームの重要性を 実習内容やる 発表と。 学科の到決 専門知識(B 教育方法等	てのモラバクを支えるを認識するそこでのを確な質疑が達目標項達目標項3)教養・持	いた も も も も も も も と と ・ は 会的経験を も を ができる を を に を ができる	技術者としてのモラルや責任感、 チームワークを支える意思伝達能力の重要性を充分に認識できる。 実習内容やそこでの社会的経験を	技術者としてのモラ	る意識を高め、	
発表し、的でこと。 学科の到は 専門知識(B 教育方法等	確な質疑点 達目標項 3) 教養・技	答ができる		ノノレン星安性を認識(ラルや責任感、 える意思伝達能	安全や環境に対する意識を高め、 技術者としてのモラルや責任感、 チームワークを支える意思伝達能 力の重要性を認識できない。
専門知識 (B 教育方法等	3) 教養・持		できる。	実習内容やそこでの 発表し、的確な質素。		実習内容やそこでの社会的経験を 発表し、的確な質疑応答ができな い。
教育方法等	•		係			
	等	支術者倫理 ([O) コミュニケーション能力 (E)			
4817 2775						
概要		一としの基2	究所、官公庁等の実社会で実習する体 本的姿勢を修得させ、実習体験で得た コースでは、企業と連携し、実務型イ	成果を今後の学習(特	寺に特別研究)(i	- 牛かすことを目標としている。
授業の進めフ	方・方法	3. 各自为 4. 学内多	として連続する2週間以上の期間、学り 内容は、製造・生産現場での業務に限 が記録した業務日誌と一連の実習を総 実習報告会において実習内容を発表す	括した報告書を提出する。	する。 	
^{注意点} 本科目の[授業計画	区分	や卒業研究 問題を解え 学校で習る	たっては専攻主任または特別研究担当 究,4年時のインターシップなどで身に 決する事のできる能力を確かめ,さら う知識と、広い意味での現場での実際 動んで欲しい。	こつけた専門知識と実 に成長してきてほしい	『験技術などを用 ハ。実習期間中に	いて問題を見いだし,計画的にその は技術、センス等の吸収につとめ、
<u>汉未可凹</u>		週		语		
		1週	JXXr JG	<u> </u>	ことの到廷口伝	
		2週				
		3週				
		4週				
1	1stQ	5週				
		6週				
		7週				
		8週				
前期		9週				
		10週				
		11週				
		12週				
2	2ndQ	13週				
		14週				
		15週				
		16週				
	3rdQ	1週				
		2週				
		3週				
		4週				
1		5週				
3		6週				
		7週				
後期		8週				
		9湖		į.		
後期	4thQ	9週 10週				

		12週									
		13週									
		14週									
		15週									
		16週									
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標											
分類 分野 学習内容			学習内容の到達目標				到達レベル	授業週			
評価割合											
				評価書・日誌・報告書・報告会			合計				
総合評価割合					100			100			
基礎的能力					0		0				
専門的能力				0			0				
分野横断的能力				100			100				